

- ・追加・変更箇所は**赤文字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/09/03

改訂 2025/04/01

【函館の女】 変更と注意事項

- ・付点 8 分音符+16 分音符の跳ねを正確に（主にメロディ）。
- ・T1 15 小節「あとはおうな」で少し遅くなる。
30 小節 4 拍目から色を変えるようにしっかり刻む。そのため 3 拍は短く切ってブレスしてよい。
- ・T2 68 小節「tun」は「B」の音。前の小節の B1 上パートの「A」より高い音なので注意。

※以下合宿での指摘。過去指摘との重複した内容もありますが、ご了解を。

- ・指揮を見てそのテンポを感じて合わせる。勝手にゆっくりにしない。
- ・とにかくノリよく。もう覚えているのだから、軽やかに楽しく（B1B2）。特に B1 の tun がテンポを決める。途中で疲れて遅くならない。譜面をなぞろうとせずリズムを体の感覚でつかむ。
- ・北島三郎さんの歌謡ショーを届けるつもりで、伴奏もステージ上の演者のつもりで映像を届ける。
- ・Intro は聴衆の心をつかむ迫力のファンファーレで。
- ・メロディの立ち上がりが遅い。食いつきよく。
- ・35 小節～
転調に行くまでも、転調後の 3 番に向かうまでの力感が弱い。ラストに向けて盛り上げていく。
転調のキーの音は、38 小節 T1 の「#C」、これは少し高めに。
B1 45,46 小節の lululu はアクセントとしてとても大事。そこで安心して次の tun も遅れずオンビートで刻む。
- ・T2 ロングトーンが下がるし消えていく。拍の最後まで音程・音量をキープすること。（特に最後）
- ・T2 3 番の 68 小節の tun をしっかり。そのあとの 69 小節の入り「B」の音を正確に。
- ・B1 52 小節は前と違って音は低いので間違わない。
- ・B2 58 小節は入りづらければ、B1 の 57 小節からと一緒に歌ってもよい。ただし、58「ら」はタイミングが違うので注意。

<曲を通じて>

演奏方針：

- ・テンポ、速すぎず遅すぎずカラオケのテンポに慣れて歌えるように。**→かなりアップテンポでの演奏とする**
ので戸惑わずついてきて。この方が（振られた男の）カラ元気が表現でき、共感してもらえるはず。
音が多いので、油断すると曲が重くなってしまう。転調後の、「あいたかーったよー」の繰り返しのところを最大限に盛り上げていく曲。元気よくノリを維持して駆け抜ける。小さくなる場所がないと思って、重くならないようにカラオケのノリで楽しんで。

- ・歌詞（メロディ、合いの手）は、声を張って滑舌よくエッジを効かせて勢いよく。
- ・ブレスきついところは、切っても問題なければカンニングブレスしてもらってよいので、楽しく。
- ・伴奏パートの演奏：

◆演奏パターンごとにメリハリを意識しそれを瞬時に切り替えることで、曲想を構成する。

Ah～、Hm（：音量を出すため uh に変更）～、Oo～：朗々と流れるように

イントロ Ah～ と エンディング Oo～ はファンファーレのイメージ

間奏 Hm（uh）は、柔らかく、でも、テンポは落とさず、声量も全開で。

dun、tun、lu：ノリ良く、高揚感を維持して（グルーブ感を出して楽しむ）

ここではメロディを食うぐらいの音量を出すため、oに近い響きを入れて（ダウン、トゥン）。

dun は、ウッドベースの重低音（ダウン）で響かせる（デュン、デャン、ダンではない）。

tun は、楽しい感じで跳ねるように。つぶれた「ティュン」ではなく「o」に近い「トゥオン」で。

◆掛け合いがばらけると台無し。指揮に遅れず、オンビートで刻む。そうすれば音量も増す。

5 小節 T2B1B2→1 拍目から最大トップスピードで一気に。

イントロからの切り替えは、指揮の振りにリズムとテンポをきちんと乗せていく。

25 小節～の「1 括弧」の演奏方法：刻むところと流れるところは曲想変える感じで歌って。

27 小節～弦楽器の間奏のイメージで流れるように（指揮も変えるので合わせる）。

30 小節 T1 の 4 拍目「C D」は「tun tun」に変更し、リズム伴奏に切り戻す。

◆休符（4 小節、38 小節、75 小節）は、ビシッと無音でそろえる。この静寂が重要。

- ・35～46 小節 転調後を最大に盛り上げるのに重要なセクション。

35～38 小節 全パート ここが転調するための関節の部分なのですごく重要。大きく大きく。

39 小節～ 転調後の勢いにつなげる。バ～ン！という迫力を前面にだして。

ここが萎むと、転調後のメロディが活かない。音が高いのでみんなで気張ってテンション維持。

46 小節の T1T2B1 と B2 の掛け合いはティンパニーで「ダンダンダン」と鳴らすイメージ。

<全般事項>

(20241022 練習後の確認) 楽譜の 2 番の歌詞の誤記の訂正：

17～18 小節 誤「あかりさざめく まつかぜまちは」 → 正「あかりさざめく まつかぜ**ちようは**」

- ・B1 「がまんがーあー」の「が」と「がー」が横すぎる。元気よさと横に開く、は全くの別物。
- ・T1T2 メロディはエッジ効かせて遅れないように。カラオケ風でいいけど、横に雑に、はダメ。

ロングトーンは、最終拍まで音程下げず、全力で伸ばしてバシッと切る。

例：「よーーーー」は、「よーおーおーおーお」と 母音を言い直してバシッと切る。

※今は、音程が下がりながらフェードアウトしている。

<個別事項>

- ・1～3 小節 B1B2 付点 4 分+8 分はきちんと跳ねる。裏の入りは鋭く突く (Ah— ッAh—) で。
- ・6 小節 T1 全音符は付点 2 分音符+4 分休符でよい (メロディをしっかり歌い出すため)。
カラオケで歌う感じで自然に切って OK。
- ・B1 11 小節～のパート内での分担は明確に。下パートの出だしは 10 小節と同じ「A」。
- ・リズムパート (主に B1) 4 拍目が、「8 分休符+8 分音符」「4 分休符」と構成が異なる小節があるので、譜面をよく確認して。
- ・19 小節 T1T2 「おもい」の音階注意。「A C C」が正解。「G A C」と歌いがちだが間違い。
- ・27 小節～ 全パート Hm～ は とりあえず u で。(でも、日本語の「ウ～」にならないように)
B2 mp とか意識せず、ガナらず豊かにガンガンに響かせて。
- ・30 小節 B2 3 拍目の「**ㇿ**B」が効果音なのでしっかりと下げて、きちんと聞こえるように響かせて。
- ・31 小節 T2 1～3 拍目は「G→B→C」(G→A→C ではない)。4 拍目は T1 とユニゾン。
B1 4 拍目に「G」があるので忘れずに。
この小節から音量「f」で 2 番につなげる。
- ・32 小節 T2 全拍同じ「A」。(3 音目「G」に下がらない)
- ・34 小節 T1 全音符は付点 2 分音符+4 分休符でよい (メロディをしっかり歌い出すため)。
カラオケで歌う感じで自然に切って OK。
- ・
- ・36～38 小節 T2 すべて同じ音「G」
- ・39 小節～46 小節 T2 他のパートの音の間に入れるので難しい。

・42 小節 B1B2 4 拍目の lulu をしっかり歌うため、(3 拍目を切ってもよいので) しっかりブレス。

・46 小節 T1T2B1 と B2 の 4 分音符での掛け合いが聴きどころ。

B2 は 2 拍 4 拍をバン！バン！と出し、その間に T1T2B1 がバチッと入る。

・48 小節 T1 全音符は付点 2 分音符 + 4 分休符でよい (メロディをしっかり歌い出すため)。

カラオケで歌う感じで自然に切って OK。

・52 小節 B1 前の小節の「B」から「A」に下がっているので注意。(10 小節との違いに注意)。

・54 小節 T2 「ぬー」と「ゆ」は同じ「B」。「ゆ」で下がらないよう注意。

・56-57 小節 B1 最後の 2 つの tun は、「F」「D」。正確に。

・60 小節 B2 3 拍目～「こおー」上パートと歌詞を合わせるため。(×「こおーる」)

・62 小節 T2B1B2 難しい。T2：違うメロディ、B1B2：中途半端な歌詞。

T1 「いるのか」は 8 分音符で刻む。T2 の跳ねる感じとのズレでかっこよくなる。

・66-70 小節 T1T2 同じフレーズの繰り返しは、強弱をつけるのが原則。この曲では後半を強調。

・71 小節～ 全パート Oo は Woo (u) と歌う。(日本語の「ウ」ではない)

・75 小節 全パート 1 拍目はバチッと切りメリハリつける。ダラーと延ばさない。

切った後はゆったりと (歌謡ショーでやるパターン)。

・78 小節 全パート 入る前にタメを入れるので、指揮をみてタイミングを合わせる。